TADOKU JUNIOR　西風かあさんのおはなし（バージェス）　★★★☆☆ ふつう　560語

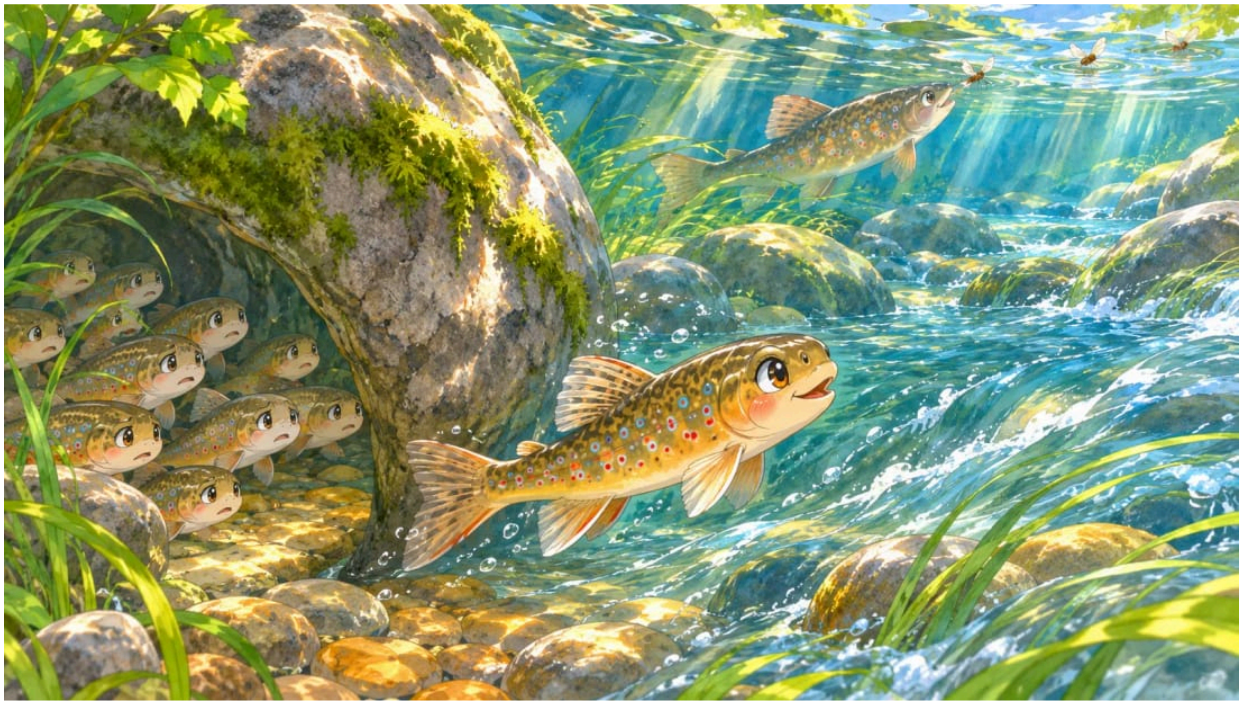
The Tail of Tommy Trout Who Did Not Mind

言うことをきかなかったマスのトミーのおはなし

Thornton W. Burgess（1910年の本）　原文そのまま　朗読：Laurie Anne Walden

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　大岩のかげの小さな池で遊ぶ子マスたち。「池から出てはいけませんよ」というおかあさんの言いつけを、マスのトミーだけはきかずに……。



In the Laughing Brook, which rippled and sings all day long, lived Mr. Trout and Mrs. Trout, and a whole lot of little Trouts. There were so many little Trouts that Mr. Trout and Mrs. Trout were kept very busy indeed getting breakfast and dinner and supper for them, and watching out for them and teaching them how to swim and how to catch foolish little flies that sometimes fell on the water and how to keep out of the way of big hungry fish and sharp eyed Mr. Kingfisher and big men and little boys who came fishing with hooks and lines.

Now all the little Trouts were very, very good and minded just what Mrs. Trout told them—all but Tommy Trout, for Tommy Trout—oh, dear, dear! Tommy Trout

never could mind right away. He always had to wait a little instead of minding when he was spoken to.

Tommy Trout didn't mean to be bad. Oh dear, no! He just wanted to have his own way, and because Tommy Trout had his own way and didn't mind Mrs. Trout there isn't any Tommy Trout now. No sir, there isn't as much as one little blue spot of his beautiful little coat left because—why, just because Tommy Trout didn't mind.

One day when round, red Mr. Sun was shining and the Laughing Brook was singing on its way to join the Big River, Mrs. Trout started to get some nice plump flies for dinner. All the little Trouts were playing in their dear little pool, safe behind the Big Rock. Before she started Mrs. Trout called all the little Trouts around her and told them not to leave their little pool while she was gone, "For," said she, "something dreadful might happen to you."

All the little Trouts, except Tommy Trout, promised that they would surely, surely stay inside their dear little pool. Then they all began to jump and chase each other and play as happy as could be, all but Tommy Trout.

As soon as Mrs. Trout had started, Tommy Trout swam off by himself to the edge of the pool. "I wonder what is on the other side of the Big Rock," said Tommy Trout. "The sun is shining and the brook is laughing and nothing could happen if I go just a little speck of a ways."

So, when no one was looking, Tommy Trout slipped out of the safe little pool where all the other little Trouts were playing. He swam just a little speck of a ways farther still. Now he could see almost around the Big Rock. Then he swam just a little speck of a ways farther and—oh dear, dear! he looked right into the mouth of a great big, big fish called Mr. Pickerel, who is very fond of little Trouts and would like to eat one for breakfast every day.

"Ah ha!" said Mr. Pickerel, opening his big, big mouth very, very wide.

Tommy Trout turned to run back to the dear, dear safe little pool where all the other little Trouts were playing so happily, but he was too late. Into that great big, big mouth he went instead, and Mr. Pickerel swallowed him whole.

“Ah ha,” said Mr. Pickerel, “I like little Trouts.”

And nothing more was ever heard of Tommy Trout, who didn't mind.

一日じゅうさらさら流れて歌っているわらう小川に、マスさんとマスおくさんと、たくさんの子マスたちが住んでいました。子マスがあまりにたくさんいたので、マスさんとマスおくさんは、とてもとてもいそがしくしていました。子どもたちの朝ごはんやお昼ごはんや夕ごはんを用意したり、見まもったり、およぎかたを教えたり、ときどき水の上におちてくるおばかな小さなハエのつかまえかたを教えたり、それに、おなかをすかせた大きな魚や、目のするどいカワセミさんや、つりばりとつり糸をもってつりに来る大きな男の人や小さな男の子に近づかないやりかたを教えたりしていたのです。

さて、子マスたちはみんなとてもとてもいい子で、マスおくさんの言うことをちゃんときいていました――トミーをのぞいては。トミーときたら――ああ、やれやれ！トミーは、どうしてもすぐに言うことをきけないのでした。声をかけられても、すぐに言うことをきかないで、いつもちょっとぐずぐずしてしまうのです。

トミーは、わるい子になろうと思っていたわけではありません。ああ、そうじゃないのです！ただ、自分のしたいようにしたかっただけなのです。そして、トミーは自分のしたいようにして、マスおくさんの言うことをきかなかったので、いまはもうトミーはいないのです。そうなのです。トミーのきれいな小さな上着の、小さな青いもよう1つさえ、のこっていないのです。それは――そう、トミーが言うことをきかなかったからなのです。

ある日、まるくて赤いお日さまがかがやき、わらう小川が大きな川へ流れていくとちゅうで歌っていると、マスおくさんは、お昼ごはんにするおいしそうなまるまるとしたハエをとりに出かけようとしました。子マスたちはみんな、大岩のかげにある、あんぜんなかわいい小さな池で遊んでいました。出かける前に、マスおくさんは子マスたちをみんなそばによんで、わたしがいないあいだ、この小さな池から出てはいけませんよ、と言いました。「だって」とおくさんは言いました。「なにかおそろしいことがおこるかもしれないのですから」

子マスたちはみんな、トミーのほかは、ぜったいにぜったいに、かわいい小さな池から出ませんとやくそくしました。それから、トミーのほかはみんな、とびはねたり、おいかけっこをしたりして、このうえなく楽しそうに遊びはじめました。

マスおくさんが出かけたとたん、トミーはひとりで池のはしのほうへおよいでいきました。「大岩のむこうがわには、なにがあるんだろう」とトミーは言いました。「お日さまはかがやいているし、小川はわらっているし、ほんのちょっぴり行くだけなら、なにもおこるはずないさ」

そこで、だれも見ていないすきに、トミーは、ほかの子マスたちがみんな遊んでいるあんぜんな小さな池から、こっそりぬけ出しました。トミーは、もうほんのちょっぴりだけ先へおよいでいきました。もう少しで、大岩のむこうがわが見えそうです。それから、もうほんのちょっぴり先へおよいでいくと――ああ、たいへん！――カワカマスさんという、大きな大きな魚の口の中を、まともにのぞきこんでしまったのです。カワカマスさんは子マスが大すきで、毎日朝ごはんに1ぴき食べたいと思っているのでした。

「しめしめ！」とカワカマスさんは言って、大きな大きな口を、とてもとても大きくあけました。

トミーは、ほかの子マスたちがみんな楽しく遊んでいる、だいじな、だいじな、あんぜんな小さな池へにげかえろうとしましたが、もうおそすぎました。トミーは、かわりにその大きな大きな口の中へ入ってしまい、カワカマスさんにまるのみにされてしまいました。

「しめしめ」とカワカマスさんは言いました。「子マスはうまいなあ」

そして、言うことをきかなかったマスのトミーのことは、それからもう二度と聞かれなくなりました。

たんご と クイズ　言うことをきかなかったマスのトミーのおはなし

Trouts マス	flies ハエ	fish 魚
hooks つりばり	pool 池	Big Rock 大岩
mouth 口		

Q1 マスおくさんは、出かける前に子どもたちになんと言った？

① 大岩のむこうを見ておいで　② 小さな池から出てはいけない　③ ハエをとっておいで

Q2 トミーがこっそり池をぬけ出したのはなぜ？

① おなかがすいたから　② おかあさんをさがしに行ったから

③ 大岩のむこうになにがあるか知りたかったから

Q3 大岩のむこうにいたのはだれ？

① カワセミさん　② 大きな魚のカワカマスさん　③ マスさん

こたえ

Q1 ②　マスおくさんは「おそろしいことがおこるかもしれないから、この小さな池から出てはいけませんよ」と言いました。

Q2 ③　トミーは「大岩のむこうがわには、なにがあるんだろう」と思い、言いつけをやぶって池をぬけ出しました。

Q3 ②　大岩のむこうには、子マスが大すきな大きな魚、カワカマスさんがいて、大きな口をあけて待っていました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #2557（Thornton W. Burgess、1910年）。パブリックドメイン。
挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。
朗読（Web版）：Laurie Anne Walden（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。